

めぶきアセアンレポート

MEBUKI ASEAN REPORT

2024年 No.4

CONTENTS

- ◇ 【 ベトナム通信 】 ～インフラ開発による日系企業への影響～ P. 2
- ◇ 【 アセアントピックス (タイ) 】 P. 5
- ◇ 【 アセアン駐在員コラム 】 P. 6
- ◇ 【 アセアン各国ニュース 】 P. 7
- ◇ 【 アセアン・インド休日情報 】 2024年11月 ～2025年1月 P. 8
- ◇ 【 めぶきFGアジアネットワーク 】 P. 9

常陽銀行シンガポール
駐在員事務所

10 Collier Quay #09-
07A
Ocean Financial
Centre,
Singapore 049315
TEL:65-6225-6543

足利銀行バンコク
駐在員事務所

689, Bhiraaj Tower at
EmQuartier,
27th Floor, Room
No.2714,Sukhumvit
Road,Klongton-nue,
Wattana,Bangkok
10110, Thailand
TEL:66-2-261-2852

常陽銀行ハノイ
駐在員事務所

5th Floor, Sun Red
River,
23 Phan Chu Trinh
Street,
Hoan Kiem District,
Hanoi, Vietnam
TEL:84-24-3218-
1668

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家に相談くださいますようお願いいたします。



常陽銀行



足利銀行

MEBUKI
めぶきフィナンシャルグループ

【ベトナム通信】 インフラ開発による日系企業への影響

ホーチミン・レーニー
大井 航平

～はじめに～

急速な経済成長を遂げるベトナムは、アジアの新興経済国として将来性に注目が集まっています。2024年の経済成長率は6%近くになるとの見通しがあり、好調な輸出や日本を含めた先進国からの外国投資がベトナムの経済成長を支えています。一方で、交通インフラ整備はベトナムの喫緊の課題として挙げられています。政府主体で大型の交通インフラプロジェクトが次々と推進されているベトナムは、今後どのような発展を遂げるのでしょうか。今回は、ベトナムのインフラ開発の現状と課題、進出企業への影響についてレポートします。

交通インフラの課題

ベトナムの急速な経済成長に伴い、交通インフラ整備の重要性が高まっています。しかし、現在の交通インフラ事情には依然として多くの課題が存在しており、事業展開する日系企業にとっても大きな障害となっています。

筆者や日系企業が感じている課題とは？

筆者の感じている課題

- ・道路交通インフラが整備されていないため、夕方のラッシュアワーや雨天時には渋滞が多発しています。
- ・交通手段は車やバイクが主流で、移動時のコスト負担が大きく、また観光客が地方に行くための手段が限られることから、地方の活性化が十分に図られていません。



道路渋滞の様子

日系企業の感じている課題

- ・日系企業の多くは、製品の輸送や物流において大きな遅延が発生し、輸送のリードタイム・コストが増加していると感じています。
- ・鉄道インフラの未整備により、内陸部からの輸送手段が限られてしまい、生産効率を低下させています。

左記の通り、ベトナムの交通インフラは未発達であり、既に進出されている企業はもちろん、新たに進出を検討する企業においても、交通インフラの動向を注視する必要があります。では現在、交通インフラは具体的にどのような状況なのでしょう。ベトナム国内の交通インフラの現状について、触れていきます。

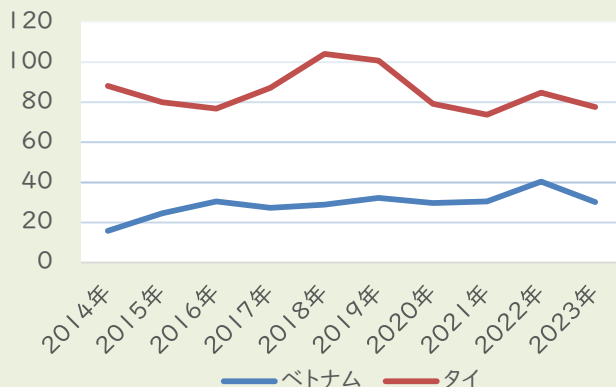
道路事情

ベトナムで最も人口の多い南部の経済都市ホーチミン市は、東京都と比べて面積はほぼ同じですが、道路の総距離が約4,200kmと、東京都の2割未満です。鉄道網や公共交通機関の未発達なこともあり、自動車やバイクを主たる移動手段とするベトナムでは、道路インフラの整備が課題となっています。

また、過去10年の新車販売台数の数値を見ると、同じアセアンのタイが減少している中、ベトナムは増加傾向にあり、道路インフラの整備が急務となっています。

新車販売台数(万台)

ベトナム・タイの新車販売台数の推移



ベトナム自動車工業会・タイ工業連盟が公表する数値を参考に筆者作成

鉄道事情

ベトナムの鉄道網には、南北に走るベトナム南北鉄道、北部ハノイのメトロ（都市鉄道/以下メトロと称します）「都市鉄道2A号線」があります。ハノイのメトロは、ベトナム初の都市鉄道であり、2024年8月には、2線目となる「都市鉄道3号線」が開通されました。このメトロ開通により期待されている効果は大きく3つとなります。



ハノイメトロの改札口

メトロ開通により期待されている効果

1. 交通渋滞の緩和

公共交通機関の選択肢が増えたことで、バイクや自動車を利用している人々の一部がメトロに移行し、交通量の削減が期待されています。

2. 移動時間の短縮

メトロは道路交通と異なり、信号や渋滞の影響を受けないため、移動時間の予測が容易であり、高い利便性を提供します。

3. 環境への貢献

バイクや自動車からメトロに移行することで、大気汚染やCO2削減に貢献することが期待されています。

実際に筆者がメトロ駅を訪れたところ、「都市鉄道3号線」の開通の影響か、駅構内の利用者は想像以上に多く、賑わいを見せていました。一方、改札出口から入場を試みる人や、券売機でのチケットの買い方が分からず窓口で購入する人がいるなど、まだまだメトロの利用が浸透していない印象でした。

現地の方にメトロ駅の活用状況についてインタビューしてみると、『路線が少ないため行ける場所が限られてしまう』『バイクを利用した方が安い』などの意見があり、複数路線の開発や価格の引き下げを望む声がありました。

今回延長された全長12.5キロの区間（ニョン駅〜カウザイ駅）の運賃は日本円で120円程度と利用しやすい価格となっており、また駅から目的地まで向かう手段として、36本のバス路線を拡充するなど、利便性の向上に努めています。



ハノイメトロの券売機

空港事情

ベトナムには、国際便がある空港が13カ所、計22の空港があります。リゾート地として有名なダナンや、世界遺産にも登録されているハロン湾など、ベトナムには観光資源が多くあり、空港の整備は観光産業の発展に欠かせないインフラの一つです。またベトナムの国内線については、多くの便が運航しており、特にハノイ、ホーチミン、ダナンといった主要都市を結ぶ便は、本数も多くなっています。

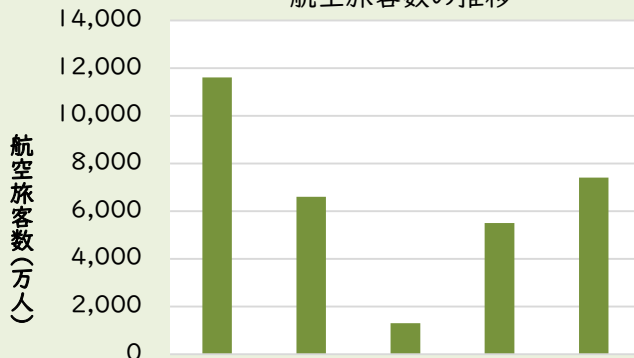
また、2023年の航空旅客数は、前年比で34.5%増の7,400万へと大幅に増加し、回復傾向にあります。貨物取扱量についても、前年比9.3%減の110万トンではありましたが、取扱量が増加傾向にあったコロナ禍前に迫る勢いです。

2026年にはホーチミン市から約47km離れたロンタイン郡に新たな国際空港が建設される予定で、今後の観光客増加に対応すべく、インフラ整備が進められています。



ホーチミンとロンタイン空港の位置関係
出展：「空港整備の海外展開について」（国土交通省）

航空旅客数の推移



2019年 2020年 2021年 2022年 2023年
ベトナム民間航空局 (CAVV) が公表するデータを参考に筆者作成

交通インフラの開発による課題解決

前項の通り、ベトナムの交通インフラの課題としては、「渋滞による輸送リードタイム・コストの増加」や「地方の活性化が図れていない」などが挙げられます。これらの課題を解決するべく、ホーチミンではマスタープランの改定作業が進められています。交通インフラの開発はベトナム経済の発展に欠かせないものです。その一例として南北高速道路とロンタイン空港をご紹介します。

<南北高速道路>

政府は、2030年までに5,000kmを超える高速道路の開発を目指しています。この中でも重要なプロジェクトの一つが南北高速道路の開発です。ベトナム南部と北部を結ぶ高速道路であり、**渋滞の解消や人の移動の効率化**に繋がり、地方産業の発展に繋がることも期待されます。

<ロンタイン空港>

航空旅客数や貨物取扱量が増加傾向にあり、将来的には既存の空港のみではキャパシティを超えることが予想されます。交通インフラ開発の一環として、ホーチミン市近隣のドンナイ省ではロンタイン空港の開発が進められています。ホーチミン市内や南部最大港カイメップ・ティバイ港から約1時間で行くことが出来ることや、近辺にはドンナイ工業団地があり、**南部の新たな発展地域**となることが予想されます。



観光地である「ムイネー」(筆者撮影)
高速道開発により、人の往来が容易になったことから、新たな観光地としてスポットを浴びています。

日本企業へのメリット

ベトナムの交通インフラ開発が進むことによる日系企業にとってのメリットは以下の通りです。

○新たなビジネス機会の創出・物流の効率化

交通インフラ整備に伴い、製造、物流、観光などの関連産業において新たなビジネス機会が生まれます。特に、都市交通の整備や空港、高速道路の建設により、企業の物流が効率化するだけでなく、新たなサービスの展開が可能となります。

～企業インタビュー～

交通インフラ開発を見越した日系企業の動向や、感じているメリットをインタビューしました。

A社:衣類小売業

バイクでの移動からメトロでの移動が主流となれば生活様式が変化し、衣類への関心が高まることが予想されます。そこにビジネスチャンスを見出し、進出を検討しています。

B社:製造業

工場が手狭となり、工場の増設を検討していますが高速道路などの交通インフラ開発により、現在の工場から離れた位置でも工場増設が可能となります。また効率的な輸送が図れるため、輸送リードタイム・コストの削減に繋がると考えています。

C社:観光業

空港増設により航空旅客数が増加し、観光施設への来客数増加が図れます。また観光地への移動がスムーズになることで、新たな観光地の開発が促進され、ホテルや飲食店などの関連産業のビジネス機会に繋がると考えています。

D社:不動産業

インフラ設備周辺では都市開発や地価の高騰により、不動産業界の活性化が図れます。しかし、現在の交通インフラは多くの課題を抱えており、開発が予定通り進まないこともあるため、開発動向には注意を払っています。

おわりに

ベトナムの交通インフラ開発は、同国の経済成長を促進する鍵となります。輸送の効率化や物流コストの削減により、ビジネスの成長機会が広がり、日系企業にとっても大きなメリットをもたらします。一方で、企業は交通インフラの動向を綿密に注視し、リスク管理を徹底することが重要です。今後もベトナムの交通インフラ整備が進むことで、日系企業はさらなる事業拡大のチャンスを手にすることが期待されますが、インフラ開発の大幅な遅延の可能性も十分に考慮した、慎重な対応が求められます。

めぶきフィナンシャルグループでは、アセアンレポートの他、ご要望に応じて各国の情報を個別にご提供いたします。また、海外視察時のアテンド等のサポートも行っておりますので、海外進出において何かございましたらお気軽にご相談ください。

【トピックス】 ～タイで広がる日本食～

Thai Topics

足利銀行バンコク駐在員事務所 田口

「今日はどこ居酒屋に行く？」筆者が退勤時に事務所入居ビルのエレベーターに乗ると、オフィスワーカーたちがこのような会話で盛り上がっていました。タイで日本食は根強い人気を誇っており、首都バンコクの中心部では、ランチ・ディナーなど多様な場面で日本食を楽しむタイ人を多く見かけます。今回は、タイで拡がりをみせる日本食について紹介します。

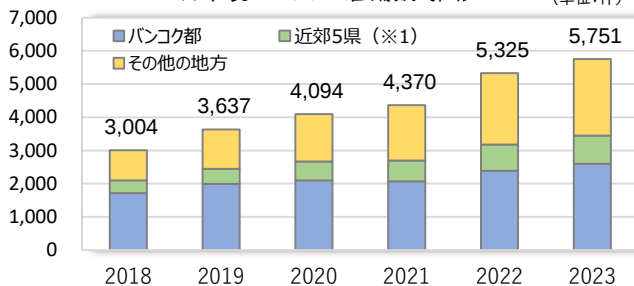
日本食レストラン店舗数とタイ向け輸出について

2023年にジェトロが行なった日本食レストラン調査によると、タイには5,751店舗（2018年比で約1.9倍）の日本食レストランが確認されています。全国77都県のすべてに日本食レストランがあるとされており、首都バンコクには回転寿司店や日本式中華料理店など多種多様な日本食レストランが展開されています。

日本食人気やレストラン数の伸長に伴い、日本のタイ向け食品輸出も増加傾向にあります。2022年にはタイ向けの農林水産品・食品の輸出額が500億円を突破し、直近の2024年1～8月累計では403億円とシンガポールへの輸出額を上回りました。日本からの輸出先としては世界第7位となっています。

日本食レストラン店舗数 推移

(単位:件)



(※1) 近郊5県: バンコク都近郊のナコンパトム、ノンタブリー、パトゥムターニー、サムットプラカーン、サムットサーコーン

日本からの農林水産物・食品の輸出額 推移

(単位:億円)

順位	国名・地域	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (※2)
1位	アメリカ	1,238	1,188	1,683	1,939	2,062	1,507
2位	香港	2,037	2,060	2,190	2,086	2,365	1,343
3位	中国	1,537	1,638	2,223	2,782	2,371	1,052
4位	台湾	904	976	1,245	1,489	1,532	997
5位	韓国	501	411	527	667	761	559
6位	ベトナム	454	534	585	724	697	534
7位	タイ	395	401	441	506	511	403
8位	シンガポール	306	295	409	554	548	359
	世界 (計)	9,121	9,860	12,382	14,140	14,541	9,203

(※2) 2024年は1～8月の累計を掲載

出所: JETRO、農林水産省HPを基に作成

首都バンコクの日本食レストラン

近年、所得水準の向上や日本への直行便の増加もあり、多くのタイ人が日本を訪れています。2023年には円安の影響もあり、統計を取り始めて以来、初めて訪日タイ人(約100万人)が訪日日本人(約80万人)を上回る事象が起きています。訪日経験のあるタイ人の増加に伴い、ローカライズされた日本食ではなく、日本人が好む本格的な日本食を求めるタイ人が増えているとの話を飲食店経営者からよく伺います。

2,500店舗を超える日本食レストランが確認されている首都バンコクには、ローカライズされたレストランから日本と変わらない味を提供するレストランまで、バラエティに富んだ日本食レストランがあります。日本人が経営し切り盛りする日本食レストランで、タイ人に囲まれながら食事をするのも珍しくはありません。



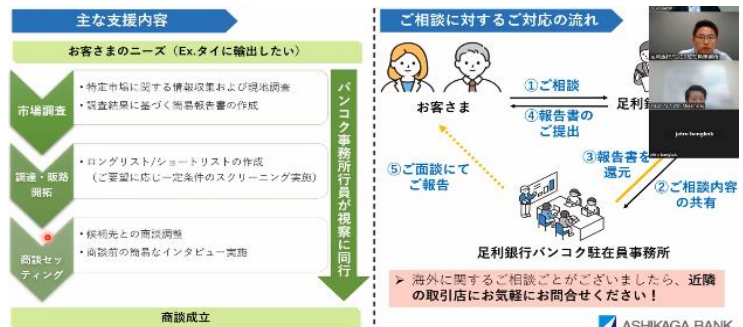
レストランで順番を待つタイ人の様子

タイ向け販路拡大セミナーの開催

日本食・日本食品に対する需要の高まりを受けて、めぶきフィナンシャルグループは、ジェトロ茨城、茨城県と連携し、2024年9月6日にタイ向け販路拡大セミナーを開催しました。セミナーでは、ジェトロ・バンコク事務所様よりタイの日本食市場の現状・食品輸出のポイント、JALUX ASIA LTD.様より食品ビジネスを成功させるためのマーケティング手法について講演いただき、足利銀行バンコク事務所からは、タイへの事業展開を検討しているお客様に対して、当所がどのようなご支援ができるかについてお話しさせていただきました。

本セミナーには日本全国から100を超える事業者様にお申込みいただきました。タイへの販路拡大にご関心のある方が多いことを改めて認識したとともに、主催者側としては、ホットな話題をタイムリーに情報提供することができたと捉えております。

めぶきフィナンシャルグループでは、本セミナーのように今後もお客様にとってご関心が高い情報をタイムリーに発信してまいります。



タイ向け販路拡大セミナーの様子

【シンガポール】～シンガポール英語「シングリッシュ」～

シンガポール人が話す英語はシングリッシュと呼ばれており、「語尾を省略する」、「中国語、マレー語を使う」、「主語がなく単語のみ」などが主な特徴です。有名なものは、OK Lah（Lahは中国語で〇〇だよの意）、No need（I don't needの短縮形）などがあります。相手に質問する時によく使うのがCanで、「Can?」→「OK Can!」（「出来る?」→「OK出来るよ!」）というような形でよく使われています。

また屋台ではテーブルにポケットティッシュを置いて席を確保するのがシンガポールスタイルです。そのことをChope（チョップ）と言いLet's chope a table（席を確保しよう）と使います。最初は理解不能でしたが、慣れるとローカル感溢れているこの言葉が最近心地よく感じてきています。しかし、政府はシングリッシュ排除を進めており、公共放送では使用禁止としています。老若男女が使うシングリッシュを失くさないで欲しいと願うばかりです。

常陽銀行シンガポール駐在員事務所
現地スタッフ 関 順

【ポケットティッシュで確保されているテーブル】



【筆者撮影】

【エレベーターのボタン】



【筆者撮影】

【ベトナム】～ベトナムの縁起が良い「数字」～

皆さまは自身の「ラッキーナンバー」と言える数字はございますか。日本では一般的にはラッキー「7」や末広がりを連想させる「8」は縁起が良い数字とされています。最近私は、ベトナム人の知人にあなたのラッキーナンバーは？と質問されました。そこで私は、「7」と回答すると知人は不思議そうな顔をしたのです。

ベトナムには、縁起の良い数字とタブーな数字があります。もっとも縁起の良い数字と考えられているのが「9」です。バイクや車のナンバーは合計で「9」になるものが選ばれる傾向があります。「9」が縁起の良い数字とされるのは中国の影響によると言われています。漢語由来の漢越語では9を「クー」と発音しますが、これはベトナム語で永遠を意味する「クー」と同じ発音です。そこから9は永遠の幸福をもたらす数字とされています。

一方、タブーとされる数字は「4」や「7」であり、不吉なことを暗示するとされています。ビルのエレベーターには、「4」や「7」という表示を避け、5A階や8A階など2フロアつくることもあります。日本ではラッキーナンバーとされる「7」ですが、失敗を連想させるとの理由で縁起が悪いとされています。

常陽銀行ホーチミンレーニー 山根 宗樹

【写真撮影の様子】



【筆者撮影】

【タイ】～タイの伝統衣装（チュットタイ）～

チュットタイは、結婚式など特別なイベント時に着用する伝統衣装ですが、現在、チュットタイを着て著名な寺院に赴き、撮影した写真をSNSに投稿することがタイ人・外国人を問わず人気を博しています。なかでも、バンコク三大寺院の一つで、三島由紀夫の小説「暁の寺」の舞台にもなった寺院「ワットアルン」は最も人気ある撮影地となっています。

観光客がチュットタイを着て寺院に行き、写真撮影をすることはコロナ禍前より行われていましたが、SNSで「バズ」り出して以降、急速に人気が高まっており、ワットアルン周辺にはチュットタイのレンタル店が増加しています。タイに旅行した際には、チュットタイを着て素敵な記念写真を撮影してみたいはいかがでしょうか。

足利銀行バンコク駐在員事務所
現地スタッフ ウダーカーン・ブンヤーボン

〈経済関係NEWS〉

シンガポール



- (10/2) 民間住宅価格1.1%低下、8年ぶりの下落
- (10/7) 8月の小売業売上高4.3%上昇

マレーシア



- (10/1) 政策金利、来年も3%で据え置き予想
- (10/9) 24年成長率予想を4.9%に引き上げ、世銀

タイ



- (10/8) 新車販売、60万台予測に据え置き
- (10/9) 1月～9月の社債発行額、信用低下で14%減

インドネシア



- (10/10) 世銀、24年の成長率予測を5.0%に引き上げ
- (10/10) 1～9月の石炭生産量、過去最高ペース

フィリピン



- (10/3) IMF、24年成長予測5.8%に下方修正
- (10/7) 消費者物価、9月1.9%上昇

ベトナム



- (10/7) GDP7.4%増、製造業好調 7～9月期、過去8四半期で最高
- (10/7) 9月海外直接投資、今年最大の42.6億ドル

〈その他NEWS〉

シンガポール



- (10/7) 現地企業関連のM&A、1～9月は29%増
- (10/8) 居住者の金融資産、23年末はアジア最高

マレーシア



- (10/4) 露天商など、来年に社会保障制度加入義務化
- (10/4) 24年新車販売、80万台越えも

タイ



- (10/8) タイ航空、保有機数10年で倍増の150機へ
- (10/10) 中銀、次期理事長の選任は延期

インドネシア



- (10/8) 中銀が為替介入、ルピア1.2%下落
- (10/9) 新政権、年300万戸の住宅供給を計画

フィリピン



- (10/7) 銀行貸出残高、8月は10.7%増に加速
- (10/10) 持続可能目標、企業の実践52%止まり

ベトナム



- (10/4) ガソリン価格、22年以降最低水準に
- (10/7) 7～9月経済成長率、7.4%に加速

アセアン・インド休日情報

2024年11月

日	月	火	水	木	金	土
					1 PH	2 PH
3 JP	4 JP	5	6	7	8	9 CD
10	11	12	13	14 CD	15 CD ID	16 CD
17	18	19	20	21	22	23 JP
24	25 MM	26	27	28	29	30 PH

2024年12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5 TH	6	7
8 PH	9	10 TH	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24 PH	25 IN MM ID MY SG PH	26	27	28
29	30 PH MM	31 PH TH				

2025年1月

日	月	火	水	木	金	土
		CD IN	PH VN TH			
		MM	JP MY SG	2 TH	3	4 MM
5	6	7 CD	8	9	10	11
12 TH	13 TH JP	14	15	16	17	18
19	20	21	22 TH	23	24	25
26 ID	27 VN	28 VN	VN IN MM VN SG MY PH SG MY	30 MY	31 VN TH	

※ナショナルホリデーのみ掲載
※祝祭日名省略

出典：ジェトロ各国情報等

- JP

日本
- MY

マレーシア
- TH

タイ
- SG

シンガポール
- PH

フィリピン
- VN

ベトナム
- IN

インドネシア
- MM

ミャンマー
- ID

インド
- CD

カンボジア

めぶき F G アジアネットワーク（１）

お客様の海外進出をサポートするため、様々な機関や外国銀行と業務提携を結び、支援体制の強化を進めています。

◎業務提携先一覧

提携先	常陽	足利	主な業務内容
中国銀行（中国）	●	●	中国国内情報の提供および各種金融サービスの提供
交通銀行（中国）	●		
中国信託商業銀行（台湾）	●		台湾情報の提供および各種金融サービスの提供
カシコン銀行（タイ）	●	●	タイ国内情報の提供および各種金融サービスの提供
バンコック銀行（タイ）	●		
バンクネガラインドネシア （インドネシア）	●		インドネシア国内情報の提供および各種金融サービスの提供
CIMBニアガ銀行 （インドネシア）		●	
ヴィエティンバンク （ベトナム）	●		ベトナム国内情報の提供および各種金融サービスの提供
ベトコム銀行（ベトナム）	●	●	
ベトナム外国投資庁 （ベトナム）	●		ベトナム関連セミナーの開催協力 ベトナム進出に関する各種支援、投資関連情報の提供
BDOユニバンク （フィリピン）	●		フィリピン国内情報の提供および各種金融サービスの提供
メトロポリタン銀行 （フィリピン）		●	
インドステイト銀行 （インド）	●	●	インド国内情報の提供および各種金融サービスの提供
バナメックス（メキシコ）	●	●	メキシコ国内情報の提供および各種金融サービスの提供
アグアスカリエンテス州政府ほか （メキシコ）	●	●	メキシコに関する現地市場調査 投資情報の提供
日本貿易振興機構（JETRO）	●	●	海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
国際協力機構（JICA）	●	●	途上国での海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
国際協力銀行（JBIC）	●		海外展開支援融資の提供
日本貿易保険（NEXI）	●	●	輸出取引を行う際の海外取引リスクに備える各種貿易保険の提供
中小企業基盤整備機構		●	海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
東京海上日動火災保険	●	●	海外リスク情報等の提供
損害保険ジャパン	●	●	リスクマネジメントコンサルティングサービスの提供
三井住友海上火災保険	●	●	各種損害保険の提供
セコム	●		海外での安全システム・防犯危機商品の提供
総合警備保障	●		海外セキュリティサービスの提供

めぶき F G アジアネットワーク（2）

◎めぶき F G 海外駐在員事務所

常陽銀行シンガポール駐在員事務所	10 Collyer Quay, # 09-07A, Ocean Financial Centre, Singapore, 049315 TEL:+65-6225-6543
常陽銀行ハノイ駐在員事務所	5th Floor, Sun Red River, 23 Phan Chu Trinh Street, Hoan Kiem District, Hanoi, Vietnam TEL:+84-24-3218-1668
常陽銀行上海駐在員事務所	上海市延安西路2201号 上海国際貿易中心1901室 TEL:+86-21-6209-0258
常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所	712 Fifth Avenue, 8th Floor, New York, NY 10019 TEL:+1-347-686-8420
足利銀行香港駐在員事務所	Suite 1601, 16th Floor, Tower 2, The Gateway, Harbour City, Kowloon, Hong Kong TEL:+852-2251-9475
足利銀行バンコク駐在員事務所	689, Bhiraaj Tower at EmQuartier, 27th Floor, Room No.2714, Sukhumvit Road, Klongton-nue, Wattana, Bangkok 10110, Thailand TEL:+66-2-261-2852

